

みんなのひろば

Message



市民と編集担当者とのおしゃべりコーナー「みんなのひろば」です。より親しみやすい広報紙をめざして、みなさまからいただいたメッセージを紹介していきます。今回は、前号(51号)のクイズ応募ハガキからです。

▼人権の眼51号「自尊心を育む」を読んで、私には6人の孫がおります。各人それぞれ個性豊かに育っています。「25%できたところではめる。親の肯定的な態度やほめ言葉のシャワーは子どもの心の栄養となる」孫達に心して与えてやりたいと思います。(60代)

▼「ほめる」ことは日本人が苦手な部分なのかもしれません。が、これこそが子育ての一番大事なこと、ほめ言葉には愛情があるのだと思います。ほめた時の笑顔を見れば、ほめた側も嬉しくなりますから。

▼「くらしの扉」の中嶋先生の文章の中で、男児があゆみちゃん

の人形をほしがった話が出ていました。神戸のある中学校では希望する生徒には女子が男子の制服を着ている状況があり、生徒からも認められていたことを思い出しました。ジェンダーは難しいです。(60代)

人権問題には様々な課題がありますが、ジェンダー問題は非常に複雑であると言えるでしょう。LGBTについても、最近話題になっている課題です。これらの問題に取り組むことで、いろんな個性に出会うことができるのは、とても貴重な体験ですから、そういった時の一期一会を大切にしたいですね。

▼旧仁井小学校跡に外国から来ている人々の為の学校が出来たと聞いていましたが、淡路にそんな学校ができて、そんなに外国人と出会うことがありませんが、北淡方面にはいらっしやるんですね。(80代)

最近の淡路市では海外から来られた方が、勉強をしたり、イベントへの出演や事業を実施している方がおられます。海外の方たちと触れ合うチャンスですので、機会があればお話しするのでもいいかもしれませんよ。

▼いつもクロスワードを楽しんでいます。じんけんの冊子もパラパラと見ているのですが、今回は「緩和ケア」を考える学習会の記事に興味をもって読みました。話を聞きに行くことができず、とても残念に思いました。最後までその人らしく生きていく、生きていくための環境作り、とても大切です。まずは自分ができることは何か、考えていきたいです。「こころ」の人権文集、図書館に読みに行きます。(40代)

誰しもが直面するかもしれない「緩和ケア」について、改めて考えてみるのが、自分自身や家族にとっても心の準備になるのではないのでしょうか。

「メッセージをお寄せください」クイズ応募ハガキ、FAXやメールでお願いします。

TEL 0799-164-2521
FAX 0799-164-2565
Eメール awaji_jinken@city.

awaji.jip

くらしのトピックス⑬

「支えあいを豊かにする地域活動のてびき」完成しました

淡路市社会福祉協議会
社協では、地域における住民の「つどいの場」として、ふれあいサロンの活動を推進しています。また、介護予防の一環として取り組まれている「いきいき100歳体操」も市内各所に拡がっています。これらの活動は比較的高齢者を対象としたものと捉えられがちですが、「つどいの場」には様々な形があります。「偶然出会った知人と立ち話をする」「集会などの後に数人で立ち話をする」などといった何気ない雑談も「つどいの場」と言えるでしょう。このような「つどいの場」を通じて、「地域で何かやってみたい」といったアイデアが生まれれば社協に相談ください。アイデアを形(活動)にするためのお手伝いができます。

今回製作した、表題の冊子には、アイデアをカタチにするためのヒントや、地域活動による相乗効果が詰まっています。冊子をご希望の方は社協支えあいセンターに常備しています。

「何？」

第41回



人差指を立て、胸の前で左右に軽く動かす

手話は、ろうあ者が日常使用しているコミュニケーションの方法です。このコーナーでは、手話やろうあ者の生活を紹介します。

ろうあ者の日常生活を知ろう⑩

聴覚に障害のある人といっても、聞こえ方は一人ひとり違いがあります。補聴器をつけると、人の声だけでなく、周囲の雑音も大きくして入ってきます。

また、音声の内容や音の種類は判別できなくても、危険から身を守るために補聴器をつけている人もいます。

協力：淡路聴力障害者協会

手話サークル津名